

ワークシート・資料編

I ワークシート

<地中海世界崩壊後のヨーロッパ地域の特色>

3つの地域・宗教の比較と「西ヨーロッパの中世前期」社会の特質

ワーク1 西ヨーロッパ、東ヨーロッパ、西アジア・北アフリカの比較

下の表をもとに、以下の問いに答えなさい。

()は資料から抜き出す・< >は自分の言葉で答えること。

【6～10世紀頃の各地域とおもな宗教の比較】

地域	西ヨーロッパ	東ヨーロッパ	西アジア・北アフリカ
おもな国	フランク王国	ビザンツ帝国	アッバース朝
おもな民族	ゲルマン人 ローマ人(ラテン人)など	ギリシア人	アラブ人 イラン人・エジプト人など
商業・農業	ゲルマン人の侵入以降、ノルマン人・イスラーム教徒の侵入で混乱 商業と都市は衰退 農業と土地に大きく頼る	コンスタンティノープルを中心に商業と貨幣経済が繁栄 自由農民が存在	ムスリム商人の交易が発展 灌漑で農業生産力向上 ムスリムも非ムスリムも土地所有権はハラージュを負担
おもな宗教・宗派	カトリック	ギリシア正教	イスラーム教
宗教上の最高位者	ローマ教皇	ビザンツ皇帝	カリフ
世俗権力との関係	教皇権と皇帝権が二元化 (教皇が皇帝に戴冠)	皇帝権と教皇権が統一	カリフは政治的・宗教的指導者
聖典	旧約聖書・新約聖書	旧約聖書・新約聖書	クラーン(コーラン)
用いられている言語	ラテン語	ギリシア語	アラビア語

問1 次の記述のうち、西ヨーロッパの説明にあてはまるものすべてに○をつけよう。

- [] ①3地域のうち、最も君主権が弱く、分裂傾向であった。
- [] ②3地域のうち、最も商業活動が活発であった。
- [] ③3地域のうち、公用語を読み書きできる人が最も多かった。
- [] ④3地域のうち、最も政治権力と宗教的権威が別々のものであった。

問2 おもな民族の言語と聖典で用いられている言語が異なる地域はどこですか。

(**西ヨーロッパ**)

☆補足説明 ラテン語の読み書きができるゲルマン人は少ないことに留意させる

問3 宗教上の最高位者のもつ政治的影響力(世俗権力)がもっとも低いのはどこですか。理由も答えなさい。

(**西ヨーロッパ**)理由 < **教皇の他に、皇帝や国王がいるため。** >

問4 3地域が、それぞれ異なる特色や地域内の多様性をもちながら、それでもそれぞれが1つの地域としてまとまっていると見なされる理由を表から読み取りなさい。

< **共通する宗教と公用語の存在** >

ワーク2 物語から読み取る、中世ヨーロッパとイスラーム世界の特色比較

次の史料1は、ヨーロッパの民話で、17世紀にはフランスやドイツ・イタリアなど各地で伝えられ、グリム童話の1つとされたこともあるお話です。また、史料2は、『千夜一夜物語』の1つとして、15世紀までに作られたお話です。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

なお、解答欄の（ ）には教科書・資料集の記述を書き（文の一部を改変して良い）、< >にはそこから推測できる内容や、あなたの考えを書きなさい。

【 史料1 長靴をはいた猫・あらすじ 】

ある粉挽き職人が死に、3人の息子にはそれぞれ粉挽き小屋、ロバ、猫が遺産として分けられた。長男が粉挽き小屋を、次男がロバを取った。残りの猫しかもらえなかった三男が「猫を食べてしまったら、後は何もなくなってしまう」と嘆いていると、猫が「心配要りませんよ。まず、私に長靴と袋を下さい。そうすれば、あなたがもらったものが、そんなに悪いもんでもなかったことが近いうちに分かります」と応えた。

長靴と袋を調達してもらった猫はまずウサギを捕まえ、王様に「我が主人・カラバ侯爵が狩りをしまして。獲物の一部を献上せよとの言いつけによりお持ちしました」と言ってウサギを献上し、王様から「余からよろしくと侯に伝えよ。“貴公の心遣い、大変嬉しく思う”」と言葉を貰う。これを繰り返して王様と猫が親しくなった頃、猫は三男にある場所で水浴びをさせる。そこに王様と姫が通りがかり、猫はその前に出て「大変です、カラバ侯爵が水浴びをしている最中に泥棒に持ち物を取られてしまいました」と嘘をつく。そうして、三男と王様を引き合わせ、「カラバ侯爵の居城」に王様を招待することになる。

猫が馬車を先導することになり、道で農奴（農民）に会うたびに「ここは誰の土地かと聞かれたら、『カラバ侯爵様の土地です』と言え。でないと、細切れにされてしまうぞ」と脅す。本当は、オーガ（人食い鬼）の土地だったが、農奴（農民）は王様に尋ねられると「カラバ侯爵様の土地です」と答える。そして、王様は「カラバ侯爵」の領地の広さに感心する。

そして、猫はある豪華な城に着く。これは、オーガの城だったが、猫は「ご城主は凄まじい魔法の使い手だと聞いていますが、まさか鼠に化けられる程ではないでしょうか？」とオーガをだまして鼠に姿を変えさせ、捕まえて食べてしまう。そうして城を奪い、王様が着くと「カラバ侯爵の城ようこそ！」と迎える。王様は「カラバ侯爵」に感心。三男は元々育ちの悪い男性ではなかったため、姫は三男を好きになり、しきりに気にかけるようになる。王様はこれに気づき、娘婿になってくれないか、と言う。三男こと「カラバ侯爵」は、その申し出を受けてその日のうちに姫と結婚する。猫も貴族に取り立てられて、鼠捕りは趣味でやるだけになった。

補足 1 猫が主人公なのは、かつて「疫病の流行は、猫が原因」という誤った判断から多くの猫を迫害した歴史がある。しかし、逆に猫を天敵とするネズミが増加し、そのネズミが疫病の原因となる病原菌を広めていたことが後にわかった。このことを背景に、この作品が完成した17世紀に、猫への評価が大きく改善されていった。

2 長靴は貴族の衣装を象徴している。

3 侯爵は、公爵につぐ高位貴族の称号。

<資料：三圃制農業をおこなう荘園の図>

【 参考 荘園と三圃制農法について 】

領主の邸宅を中心に、農民の住宅がおのおの小規模な庭や菜園地をともないつつ密集して存在し、その部分が全体として垣をもってとりかこまれ、狭義の村をなしている。その周囲にはいくつかの大きな開放耕地がひろがり、耕作地または牧草地として利用される。開放耕地はその運営上、春耕地・秋耕地および休閑地の3つにほぼ等分され、年々順次にこれが輪作されることとなっている。春耕地には、大麦などが、秋耕地には小麦などが作付けされ、休閑地は地力の回復をはかる目的で一年間犁を入れるだけで放置されるのが普通である。各耕地群は多数の並行的な条地（地条）に分割され、直営地と農民保有地が条地として混在している。

（増田四郎『西洋経済史概論』・一部表現を改めた）

問5 史料1の王様は、「本物の」カラバ侯爵を知らず、カラバ侯爵の領土のことも知らないことが読み取れる。それでも、猫と三男を信じたのはなぜだろうか。（ ）の正解は複数あります

- ・（ 家臣 ）は、（ 1人で複数の君主を持つことができた。 ）
- ・（ 大諸侯 ）は、（ 国王に並ぶ権力をもって自立し、国王は実質的に大諸侯の一人にすぎなかった。 ）
- ・（ 領主 ）は、（ 国王の役人が荘園に立ち入ったり課税したりするのを拒む不輸不入権をもち、荘園と農民を自由に支配することができた。 ）

→そのため、王様は侯爵について< いつも顔を合わせておらずよく知らなかった >から。

問6 農民は、猫に脅されて『（ここは）カラバ侯爵様の土地です』と答えている。もし、ひねくれ者がいて別の答えをしたら、次の3つのうちどの答えは嘘となるだろうか。その理由を教科書・資料集の記述をもとに推測しなさい。

〔○〕①「もともと王様の土地です」 [] ②「私の持つ土地です」 [] ③「教会の土地です」

☆補足説明 中世の所有権の重層性に気付かせる

理由< ①が嘘となる理由 もともと家臣が献上したものを貸し与えたため。 >

< ②を答える理由 そこが農民保有地であった。 >

< ③を答える理由 荘園内の教会領であった。 >

問7 オーガ（人食い鬼）は、もともとの話ではトロル（北欧の魔法を使う巨人）であった。いったい、何を象徴した存在だろうか。このお話が今勉強している 10 世紀前後だとしたら、どんな可能性があるか、教科書のこれまでの記述から推測してみよう。（ ）の正解は複数あります

例：桃太郎など日本の昔話の鬼＝朝廷に従わない勢力

【解答例】（ 王に従わない大諸侯・カトリック教徒でない者・ノルマン人・イスラーム教徒 ）

問8 農奴は、オーガの支配にも猫の脅しにも特に逆らうことなく従っている。なぜだろうか。

農奴は（ 不自由身分で、移住の自由がなく、領主裁判権によって裁かれる立場だから。 ）

問9 史料1の物語の最後に、三男は王様の娘婿となり、猫も貴族になる。これが意味することを、（ ）には教科書の用語を使い、< >にはあなたの考えを記入して説明しなさい。

三男は王と（ 封建的主従関係 ）を結び、王様はカラバ侯爵として三男に（ 封土（領地） ）を

与えて保護する代わりに、三男は王様に忠誠を誓うこととなった。

また、猫は< 三男の家臣ではあるが、同時に王様に貴族とされた >。

【 史料2 博学のタワッドの物語・あらすじ 】

昔、バグダードに豪商がいたが、一人息子アブール・ハサンを残して死んだ。アブール・ハサンは父の死後、財産を使い果たし、残ったのは美しい女奴隷タワッドだけになった。

タワッドはアブール・ハサンに、カリフのハールーン＝アッラシードに自分を1万ディナール以上で売るように言った。アブール・ハサンがタワッドをカリフの前に連れて行くと、タワッドは自分の知識の優れていることをカリフに言ったため、カリフは一流の学者を集め、タワッドの知識を試すことになった。

タワッドは、コーランの読誦者、神学者、コーラン学者、医者、天文学者、哲学者、賢人のイブラーヒーム・ベン・サイアルと順次、問答を行い、タワッドは相手の問いには全て答えたが、相手はタワッドの問いには答えられず、問答は全てタワッドの勝ちとなった。カリフは喜び、1万ディナールを与え、タワッドに後宮に入るか、アブール・ハサンの元に帰るかを聞くと、タワッドは帰ることを希望したので、カリフは許し、さらに5千ディナールを与え、2人は幸せに暮らした。

補足 4 ディナールは金貨の単位。1万ディナールは数百万～数千万円の価値。

問10 史料1の粉挽き職人は、当時の一般人ですが、彼と史料2の女奴隷タワッドの違いを史料1・2から読み取りなさい。

粉挽き職人は、< 財産を持っていた >。タワッドは、< 豪商の財産であった。 >。

☆補足説明 農奴と奴隷の違い（財産所有の有無など）と共通点（職業選択・移動の自由がない）を確認する

問11 カリフが集めた学者たちの特徴から、バグダードで栄えた学問や文化の特色を教科書 p. 88-89 の記述をもとにまとめなさい。（Teams で解答）

【予想される解答例】

イスラーム法学者（ウラマー）が司法や政治で活躍したほか、ギリシアの医学や天文学・哲学やインドからもたらされた数学が融合した新しい文化が生まれた。

問12 史料1の王様と史料2のカリフ、どちらが君主権が強いといえるか。物語から読み取れる部分を比較しつつ、判断してみよう。（Teamsで解答）

【問12の予想される解答例】

「(B)具体的な評価規準 ワークシートの2つの史料と教科書の記述を比較し、西ヨーロッパとイスラームの君主権の違いを考察できている。」を満たしていると判断されるものの例

①カリフにはすぐに一流の学者を集められる影響力とタワッドに一万ディナールを与える財力があると感じたが、王様はウサギを捕まえてきた猫に感謝を伝えただけで財力は感じず、カラバ伯爵の領土も知らなかったことから影響力がないことが読み取れるからカリフの君主権が強いと言える。

②史料2のカリフ

史料1の王様は「カラバ侯爵」の土地の広さに感心しているため当時、土地の広さはあまり広くないことが分かる。

史料2のカリフはタワッドの知識に感心していることが分かる。国を強くする為には戦力だけでなく知識も必要である。そのため、多くの一流学者を集めることが出来ているカリフは君主権が強い。また1万ディナールをタワッドに与え、さらに5千ディナールを与えられるほどお金持ちである。

③王様は猫を貴族に取り立てる事しか出来ず、他人に財産を与える事は出来ない。しかしカリフは、気に入った奴隷を大金積んでまで買おうとしている。その上また金を与えて家に帰したので、カリフの方が君主権が強い。

④王様の「領土の広さに関心する」「娘婿になってくれないか」という言葉と、カリフの「一流の学者を集め」「カリフは許し」の部分から、お金を持っていてすぐに人を集めることができ、上からの態度をしているカリフの方が君主権が強いと思う

⑤史料1では、領主の私有地である荘園で働く農奴は領主に仕えているあたりから、王様に仕えている訳では無いことがわかる。また、オーガのように王様に従わず私有地を支配する勢力が居る。それに反し、史料2では、カリフの呼び掛けで国中から一流の学者を招集出来るほどの権力と圧倒的地位があったことが伺える。そのため、君主権がより強いのは史料2のカリフであると推測される。

⑥史料1の王様は、猫が主張するカラバ侯爵の領地を三男が所有することを認めるのみであったが、史料2のカリフはすぐれた人物と認めたタワッドに1万5千ディナールもの褒美を与えた。また、王様は三男を娘婿にすることで、三男とカラバ侯爵の領地を味方につけようとしたが、カリフはタワッドの希望を尊重し、2人を自由にさせた。

このことから、カリフの方が財力と余裕があり、君主権があるといえる。

「(C)具体的支援」が必要と判断されるものの例

①王様は、自分の領地内でしか権力を振るえないのに対し、カリフは宗教上と政治上の権力を持つ最高権威者であることから、カリフの方が強いと言える。（史料に即していない）

②王様は猫からうさぎをもらっているのに対し、カリフは何ももらうことができていないので王様のほうが君主権が強い。（史料を読み取ることができていない）

③カリフより王様の方が、強い。史料1の方は、王様と猫の間にしっかりとした主従関係が築かれているから。（史料を読み取ることができていない）

発展問題 西ヨーロッパ中世社会をビザンツ帝国、イスラーム世界と比較する

問 ワーク1・2をふまえて、フランク王国が分裂した後に成立した西ヨーロッパ社会（9～12世紀ごろ）の特色（君主権・経済・世俗君主と宗教組織の関係・農民の立場・学問や文化）を、ビザンツ帝国・イスラーム世界両方と比較しつつ、まとめなさい。

【予想される解答例】※（ ）と下線は教員が加筆

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・中世西ヨーロッパ社会の特色を、ビザンツ帝国・イスラーム世界の特色と適切に比較しつつ、自分なりの考察や価値判断を加えて表現することができている。

① 君主権はイスラーム世界ではカリフ、ビザンツ帝国では皇帝、西ヨーロッパでも皇帝が持っているが教皇権より弱く、王の権利も封建制でそこまで高くもなかった。西ヨーロッパでは教皇権と皇帝権が2つにか別れているがビザンツ帝国とイスラーム世界では権力が1つにまとめられている。ビザンツ帝国ではコンスタンティノープルを中心にイスラーム世界ではムスリム商人との交易で経済が発展していったが西ヨーロッパでは商業と都市があまりよくなく経済は2つの地域ほど良くない。農民の立場は西ヨーロッパとビザンツ帝国では低く農奴が多かった。学問や文化はイスラーム世界では天文学や代数学などの発展した学問と共有アラビア語によって文化が発達、ヨーロッパの方では高度な学問が発展しなくて、西ヨーロッパでは古代ローマの技術が失われ、文字の読み書きもできない人が多かった。

② （西ヨーロッパの）君主権は西ヨーロッパ、ビザンツ帝国、イスラーム世界のうち一番弱く、分裂傾向にあった。イスラーム世界ではカリフ、ビザンツ帝国ではビザンツ皇帝と一人なのに対し、西ヨーロッパでは教皇と皇帝の二人いた。

経済は、3つの中で一番発展していなかった。ビザンツ帝国ではコンスタンティノープルを中心に商業と貨幣経済が繁栄、イスラーム世界ではムスリム商人の交易が発展、また灌漑で農業生産が向上した。それらに対し、西ヨーロッパでは商業も都市も衰退していた。世俗君主と宗教組織の関係は、教皇権と皇帝権が二元化であったため、別々だった。ビザンツ帝国もイスラーム世界も政治権力と宗教的権威は統一されていた。

農民の立場は不自由、身分で、外部勢力の侵入から、生命、財産を守るため、強者と封建的主従関係を結んでいた。ビザンツ帝国では、小土地所有の自由農民が増えた。イスラーム世界では土地所有者はカリフから税をとられていた。

学問は、イスラームで神学、法学、歴史学、医学、数学などたくさん発展したが、西ヨーロッパでは読み書きできる人が多くなかった。

このように、西ヨーロッパでは、ビザンツ帝国やイスラーム世界よりもおくられていていた。

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・中世西ヨーロッパ社会とビザンツ帝国・イスラーム世界の3地域について、特色の相違点を適切に表現することができている。

③ 政治は、西ヨーロッパは王と教皇が二元化、封建制度であるのに対し、ビザンツ帝国は官僚制度で皇帝と教皇を兼任しており、イスラームではカリフが政治的・宗教的指導者であった。

経済では、西ヨーロッパで農奴制がベースとされた自給自足経済であった。ビザンツ帝国では商業と貨幣経済が繁栄、イスラームでは灌漑で農業生産力が向上された。

文化では、西ヨーロッパではローマとゲルマン文化が融合されている。ビザンツ帝国はギリシアと東方文化が融合されたビザンツ様式であり、イスラームはアラブ文化と周辺地域の諸文化が融合された文化であった。

宗教は西ヨーロッパでローマとカトリック、ビザンツ帝国ではギリシア正教、イスラームではイスラーム教が信仰された。

④ 〈君主権・宗教との関係〉ビザンツ帝国とイスラーム世界が政治的リーダー（君主）と宗教的リーダーを兼ねているのに対し、西ヨーロッパは圧倒的政治的リーダーであるローマ教皇が戴冠することで皇帝・国王が誕生し、君主・政治的リーダーとしての地位を得られる。

〈経済・農民の立場〉ビザンツ帝国とイスラーム世界は商業が発達しているのに対し、西ヨーロッパは封建的主従関係に基づいた農業が主であった。ビザンツ帝国の農業は非奴隷・移動自由の小作人、コロヌスを

使った大土地農業であったが、西ヨーロッパでの農業は領主に対して賦役・貢納が義務化されている、移動に自由がない農奴制だった。西ヨーロッパでは生産物地代を“貢納”という形で納め、教会に十分の一税を納めていたが、イスラーム世界では土地の所有者に課せられるハラージュを納めていた。

〈学問・文化〉この頃の西ヨーロッパでは学問・文化共に著しい発展は見られなかった。ビザンツ帝国ではギリシア古典文学を基盤とし、キリスト教神学が主な学問であった。イスラーム世界では融合文明と学問が発達し、固有のアラビア言語学と外来学問が発達した。

II 資料

- ・「長靴を履いた猫」 「博学のタワッドの物語」 wikipedia 記載のものを一部加筆
<https://ja.wikipedia.org/wiki/長靴をはいた猫>
<https://ja.wikipedia.org/wiki/千夜一夜物語のあらすじ>
- ・『中世を旅する人びと ―ヨーロッパ庶民生活点描―』（阿部謹也 平凡社 1978年）

III 参考文献

- ・教科書『詳説 世界史』（山川出版社）
- ・資料集『ニューステージ世界史詳覧』（浜島書店）